

持続可能な社会をめざすCSR活動

神奈川県技術士会 環境マネジメントセンター 奥村 貞雄
ける場合があります。

1. 持続可能な社会

持続可能な社会とは、企業としての経済的な側面だけでなく、環境面での側面、人間・社会面での側面においても、取組みが進んだ、バランスがとれた社会を指すと云われています。それは、企業の財務状況や経営の透明性を高めるのは当然のこと、地球温暖化など地球規模の環境問題だけでなく、廃棄物の処理や化学物質の管理等、地域における環境面への取組みや、コンプライアンス(法令順守)にまつわる不祥事、スキャンダル、犯罪等を憂慮する人間・社会面での取組みがなされ、企業として、人間として、尊厳のある生きざまを、次世代にかけても享受できる社会だと思えます。そして、この社会へのアプローチがCSRの基本的な理念の一つなのです。

2. CSR活動とは

CSR(Corporate Social Responsibility)は、「企業の社会的責任」と訳されていますが、Responsibilityには信頼、信頼性という意味があることから、「企業の社会的信頼度」と訳すと良いと言われます。又、経済同友会の白書では、CSRの本質を「企業と社会の持続的な相乗発展に資するもの」としています。これらからすれば、CSR活動とは、企業の社会的信頼度を少しずつでも良いから上げて行き、社会の持続的な相乗発展につなげていく活動ということが出来ます。この信頼を得るために最も重要なことは、社会との対話を重ねることであり、利害関係者(ステークホルダー)への説明責任を果たすことだと考えます。

3. 欧米企業と日本企業のCSR活動に対する考え方

欧米企業がCSR活動に期待するのは、イメージアップであり、顧客吸引力につなげたり、企業価値そのものの向上や株価の上昇につなげたりする事にあると云われます。活動の多くは、災害被災者への物的・人的支援とか、病院や学校の創設・支援といった活動で、社外から見てアピールしやすい本業の外での社会貢献活動に力点がおかれる事が多いとされます。

一方、日本企業がCSR活動で期待するのは、企業の持続的発展であり、活動は本業の中で、顧客や取引先、地域社会への配慮といった形で、事業活動の中に織り込まれていくものに力点がおかれていると云われています。従って、活動や成果が明確にならない事が多く、活動の存在があまり知られず、CSR活動と云う点で、不当に低い評価を受

4. CSR活動の企業にとっての意義

前述のごとく、CSR活動には様々な考え方があり、多様性がありますが、活動に取組む意義について再確認して見ますと以下のごとく整理され

ます。
(参照欄は、この1年に発行された、関連するメルマガ No.を示します)

(1)企業内での意義

内在するリスクの洗い出し、分析につながり、洗い出されたリスクに対する対策を講ずることにより、リスクの低減が図られる。

(法令順守:No.89、企業倫理:No.90 参照)

経営トップによる、活動を通じた企業姿勢の明確化は、従業員の意欲向上につながる。(社会貢献・法令順守、CSR 報告書:No.89,97 参照)

活動促進のための経営体制等の見直しは、経営の効率化につながる。

(ISO14001,9000 等マネジメントシステムの構築:No.92,95,96 参照)

(2)企業外での意義

環境対策や安全性の考慮は、新商品、新サービス等、新市場の開拓につながる可能性がある。(SRI 社会的責任投資:No.94 参照)

リスク管理体制の徹底、安全性の確保、本業を超えた社会貢献は、企業イメージの構築、ブランド価値の向上につながる。逆に、不良品の提供や不祥事などは、その企業の提供する全製品・全サービスの不買運動やブランド力の低下にもつながる。(法令順守:No.89、企業倫理:No.90 参照)

労働環境の向上や人材育成、人権尊重は、優秀な従業員の確保につながり、人材の活性化に資する。(企業倫理:No.90 参照)

以上は、総合評価としての企業価値を押し上げ、市場における株価の上昇、安定化につながる。(CSR 報告書への展開:No.97 参照)

5. まとめ

持続可能な社会をめざしてのアプローチ(CSR活動)は、やさしいものではありません。「社会と対話し社会を動かそうとする企業は、社会からの報酬を得るのだ」と云われます。CSR活動は、まさに、企業のブランド価値に直結しているのです。

(本稿で CSR シリーズは終了します。1年間、ご愛読有難うございました。)